

高校生の高校生による
高校生のための模擬国連大会



第2回 全国高校教育 模擬国連大会 (AJEMUN)

All Japan Educational
Model United Nations

全国中高教育模擬国連研究会(全模研)
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

第2回大会概要

開催日時：2018年8月6日、7日

開催場所：きゅりあん（品川区立総合区民会館）

主催：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

全国中高教育模擬国連研究会（全模研）

大会規模：509名（一般2議場、初心者2議場）

会議方式：全日本高校模擬国連大会と同じ方式（ハーバード方式）

使用言語：日本語（一部定型句等は英語）

出場費用：3,000円

議題：国際安全保障の文脈における情報及び電気通信分野の進歩（サイバーセキュリティ）

表彰：各議場に以下の賞を設定する。

・最優秀賞（1ヶ国）・優秀賞（3ヶ国）・実行委員特別賞（1カ国）

第2回大会ロゴ



この大会公式ロゴは、18の三角形から作られている。それぞれの色は、国連が発表した持続可能な開発目標（通称 SDGs）で使用されている17の色と、第1回目の今大会のロゴで使用された青色である。この第1回大会の青色は国連の青色と同じ色でもあり、青色は平和の象徴とも言える為、このロゴにおいて非常に重要な意味合いを持っている。今大会のロゴにSDGsの色が導入されたということは、SDGsの重要性を強調していることになる。国連会議は、最終的にこれら17のSustainable Development Goalsを達成する為に開かれていると考えられる為、SDGsの重要性は極めて高い。これら18のカラフルな色が使用されたことには、国際社会で様々な文化・伝統を一つに囲むことで国際社会における人々の協調性、そして共生を示すとともに、国々や人々の繋がりを示しており、これらの繋がりが国際問題解決への糸口になるであろうという願いが込められている。

また18の三角形は合わせて一つの六角形になっている。六角形にも複数の意味が込められており、国連の公式言語を表している。現在、国連での公式言語は英語・フランス語・スペイン語・中国語・ロシア語・アラビア語である。またこの六角形の”6”という数字には”目に見える物質を追い求めることよりも、目に見えない豊かさや美しさに目を向けることを意識する”という意味が込められている。”6”という数字は物事の完全さ、そして調和のとれた美しさの象徴なのである。本大会のロゴは三角形の囲みの中身が空白になっているが、これに関して、本大会の参加者である高校生がこれから見えない国際問題の解決に立ち向かっていることを表している。それは未知なる挑戦への第一歩となる。AJEMUNはこれらの国際問題に寄り添い、問題解決に携わる。その為の大会だという強い思いが込められ、このロゴは作成された。

会議の特徴

「全国に向けた模擬国連大会」と題して開催された本大会には、他の大会とは異なる特徴を持っている。以下の文では、本大会における特徴を三点に分けて述べていく。

まず一点目に、会議中における使用言語である。模擬国連大会は通常、英語を使用した会議進行が取られているものの、本大会の目標である「全国の高校生に模擬国連の存在を知ってもらう」という強い思いから、高校生が共通して使用出来る日本語の使用形態を取っている。本来、国連の場において各国が平和に向けた議論を、英語を使用して交わすものであり、模擬国連はその模擬を行うものである。しかしながら、全国の高校生が皆、英語を使用したディスカッションなどに触れる機会が多いというわけではなく、経験者には日本語による高度な議論が交わせるよう、また普段英語を日常的に使用することない高校生のために、親しみやすく、会議催促がスムーズに行える使用言語の設定とその配慮を行った。

次に二点目として、議場設定である。本大会において上記に示した通り、模擬国連経験者が少ないため初心者議場加え、議場設定を行った。A 議場・B 議場は一般議場、すなわち模擬国連経験者及びその上級者とし、C 議場・D 議場は初心者議場とした。本大会ならではの特徴であり、特に C 議場と D 議場においては、会議の流れを丁寧な説明を加えながらの進行を行った。模擬国連初心者が実際に大使としての役割を果たすことで、会議を通し模擬国連の理解をより深めてもらうという願いがあったからだ。参加をしなければ体感することのできない模擬国連における「学び」の数々を、初心者議場を設けることで確立できたものである。

最後に三点目として、本大会の醍醐味である「高校生による高校生の」大会運営である。本大会では全国から集まった大会実行委員が大会開催までの約半年間をかけ、三つのセクションに分かれた後、準備を行った。総務広報セクション、運営受付セクション、フロント・アドミニセクションそれぞれの役割を担うこととなった。主に総務広報セクションでは、パンフレットやホームページ、チラシ作成といった今大会に向けた宣伝などの広報としての役割を担った。運営受付セクションでは、大会参加者の国割りや議場の準備等を行い、フロント・アドミニセクションは、大会進行に向けた準備と本大会の議題設定、及び議題概説書と PPP フォーマットを行ったものである。こうしてそれぞれ異なる三つのセクションが一丸となり、実行委員の皆が同じ目標を持つことで、「高校生による大会運営」が実現したのだ。

結果として、全国から 500 名を超える大会参加者が募り、二日間に渡る灼熱した議論が交わされ、初心者、経験者と共に参加者の皆が刺激的かつ有意義な活動を行えた。その理由として、本大会ならではの使用言語の工夫や、新たな議場を設定するという試み、また、「高校生による高校生のための高校模擬国連大会」の開催からである。最後に「全国に向けた模擬国連大会」は全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN) ではないと実現することのできない大会である。

以上が本大会における特徴を示したものである。

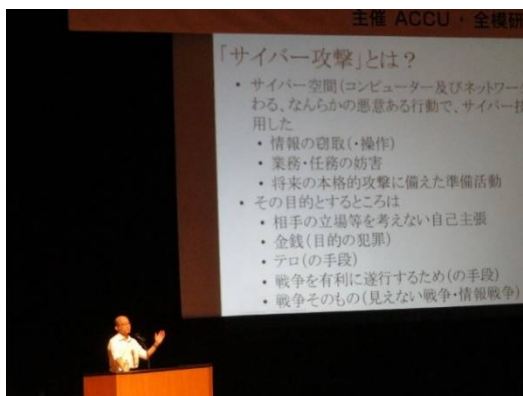
第2回大会スケジュール

第1日目 8月6日（月）

9:30	受付開始
10:00	開会式 1. 実行委員長挨拶 2. 基調講演『国際安全保障の文脈における情報及び電気通信分野の進歩（サイバーセキュリティ）』 伊東 寛（前・経済産業省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官 現在、ファイア・アイ株式会社 最高技術責任者、工学博士） 3. 会議細則の確認 4. 注意事項 5. 開会宣言
11:00	各会場へ移動・昼食 A 議場：大ホール 8 階 B 議場：小ホール 1 階 C 議場：イベントホール 7 階 D 議場：イベントホール 7 階
12:10 (13:10)	会議開始 (引率教員ミーティング 6 階 大会議室にて)
15:00	WP 提出
16:15	会議終了
16:30	交流会（任意参加 8 階 大ホールにて）

第2日目 8月7日（火）

9:45	会議開始
12:10	昼食 兼 交渉時間
13:30	DR 提出
15:00	投票
15:20	会議終了
15:50	閉会式
16:30	参加者完全解散



実行委員長挨拶

大会実行委員長・総務広報セッションリーダー
札幌日本大学高等学校 3 年 尾先由崇

第 2 回全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN) が無事終了したことを、大変嬉しく思うとともに、本大会にご出場頂きました全ての大使の皆様、開催にあたって後援、協賛、ご協力いただきました全ての皆様に、大会実行委員を代表して心から感謝申し上げます。そして本大会の主催である ACCU の職員の皆様、全模研の先生方、共に本大会の運営を務めてくれた実行委員の皆にも、心から感謝しております。

私は全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN) の運営に、第 1 回大会副実行委員長、第 2 回大会実行委員長として、2 年以上に及んで関わってきました。昨年の実行委員たちと共に、自分たちの手で創った AJEMUN。初開催となった第 1 回大会は無事に終了したものの、運営にとっては多くの課題を残すものとなりました。そして臨んだ第 2 回大会、大会実行委員長として昨年の実行委員たちのスピリットを今年度の実行委員たちへ繋ぎ、昨年よりも質の高い AJEMUN を創るということを常に頭に置き、半年間以上に及ぶ運営準備を行ってきました。

第 1 回大会での反省を通して、私が本大会において最も重視していたのが、各会議の質であり、出場大使の満足度の向上でした。そして初心者向けの大会という考え方ではなく、AJEMUN が初めての模擬国連である初心者から、これまでに豊富な会議経験がある模擬国連経験者まで、すべての出場者に満足していただける全国大会を目指すという共通認識を大切にしてきました。初心者議場を今年より設置したのも、そのような認識が背景にあります。昨年開催された第 1 回大会には多くの初心者の方にもご出場頂きましたが、豊富な経験がある大使に圧倒されてしまい、なかなか流れに着いていくことができず、交渉に参加できていない大使が多く見受けられました。しかし初心者議場を設置した本大会では、第 1 回大会に比べ、より多くの大使が積極的に交渉に臨まれる姿が見られ、私としても非常に嬉しく思っております。

「日本全国の高校生に模擬国連を経験してほしい」という想いを胸に、本大会は総務広報セッションを中心に、広報業務にも力をいれて参りました。お蔭様で昨年よりも多くの大使の皆様にご出場いただいたわけではありますが、都道府県別出場校数のデータによると、出場いただいた学校の分布はまだまだ首都圏に大きく偏っている状態にあります。本大会プログラムの私からの挨拶でも書かせていただいた通り、模擬国連は世界的にも非常に高い評価を受ける教育プログラムであり、最高のアクティブラーニングなのです。そんな模擬国連を、グローバル人材の育成に力を入れる日本の教育現場にこそ、導入されるべきではないだろうか、というのが私の考えです。そして模擬国連を新たに始めようとするより多くの中高生が、模擬国連を始める 1 つの機会として、全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN) への出場を検討していただければ幸いです。首都圏のみならず、全国の高校生に出場していただける AJEMUN であるように、次年度以降の大会運営では、さらなる大会の質の向上はもちろんのこと、総務広報セッションを中心に広報業務の幅を広げ、全国の高等学校に本大会をご案内できればと思っております。

最後になりますが、次年度以降の本大会運営の改善と、日本最大規模の模擬国連大会としての質のさらなる向上を祈り、大会実行委員長としての挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

副実行委員長挨拶

大会副実行委員長
浅野高等学校 2 年 高田陽一郎

この報告書を書くのももう 2 回目になります。AJEMUN は私にとってとても感慨深いものがあります。第 1 回 AJEMUN では大使として参加し、優秀大使賞をいただきました。そして、今回第 2 回 AJEMUN に今度は副実行委員長として参加させていただきました。今大会は高校生による高校生のための模擬国連というモットーで企画してきましたが、どちらの立場も経験させていただけたことは私にとって今後の一生の財産になるでしょう。

さて、私は今大会で模擬国連初心者のための大会説明動画の監修や実行委員長のサポート、当日のアドミンなど多様な仕事を担当させていただきました。昨年に引き続きサイバー上のみでの準備となり、とても難航しましたが何とか無事におえることができました。ここでは私が一番難航した動画作成について簡単に紹介したいと思います。この活動は実行委員の中に動画を作成した経験のある人は誰もおらず、サイバー上のみんなと模索しながら進めていきました。また、模擬国連をやったことのない人が会議に参加して困らないように基本からきちんと説明しなければいけない、ということはとても難易度が高く、私は何度も台本を書き直し、模擬国連のルールを知らない家族に向けて何度も説明しました。実際に作成された動画がうまくいったかどうか、初心者のも‘ぎこっかー’が理解してくれたかはわかりませんが、1 人でも多くの人に模擬国連のいろはを伝えられていたらとてもうれしいです！

また今大会で私は新たに 1 つ大きなことを学びました。それは「副リーダーとしてどう動くか」ということです。このことがどれだけ難しいかは、模擬国連でグループリーダーになることよりもグループの 2 番手として周りと交渉していくことのほうが難しいことを考えれば容易に想像がつくでしょう。副実行委員長という仕事は実行委員長が優秀であればあるほど仕事がなくなっていくものです。また逆に言えば、実行委員長ではカバーできないことを自分で見つけてフォローすることが求められるということでもあります。実行委員長の尾先さんは本当に優秀な方で私の出る幕はほとんどなかったのは事実ですが、アクシデントに備えていろいろな対策を考え準備したことは私にとって初めての素晴らしい経験となりました。

最後になりますが第 1 回、第 2 回と様々な形で関わらせていただいたこの素晴らしい大会が今後も末永く続くことを心から願い、報告書とさせていただきます。本当にありがとうございました。



(大会前日、実行委員による準備)

副実行委員長挨拶

大会副実行委員長
宮崎学園高等学校 3 年 長倉あんみ

大会も無事に終え、初心者の私には多くのことを学ぶことができた半年間でした。今でも、鮮明に思い出される記憶はどれも今まで私が経験したことのないようなことばかりです。宮崎に帰ってからは、この経験を活かし何か出来ないかと考えております。

準備期間は約半年。昨年の経験者や参加者、報告書などをもとに全国から集った実行委員は、サイバー上で連絡を取り準備を進めてきました。なかなか時間が合わず、小まめに連絡を取ることは出来ませんでしたが、委員長が中心となり進めてくれて無事に当日を迎えることができました。実行委員の連携はとても大切だと感じました。

今回、私が副実行委員を務めるにあたって目標としたことは、「九州の学生にも模擬国連を広める」ということです。私の住む宮崎では模擬国連を知っている学校はなく、全くと言っていいほど普及していません。その為もっと多くの人に模擬国連を認知してもらい、多くの魅力が詰まったこの模擬国連活動を普及させたいと思いました。今回の広報活動では出来る限り早めに取り組み、多くの学校に情報が広がるよう地域ごとに学校のリストを作成するなど試みましたが上手く発信することが出来ず、思っていた以上に広報活動の難しさ、工夫が必要だと感じました。しかしながら、昨年度には参加がなかった学校からの多数の応募、昨年を上回る約 550 名もの大使の出場、そのうち初心者大使が 2 つの議場を埋めるほど出場してくださり盛大に大会を開催することができました。

交流会では、実行委員がグループごとに分かれて、それぞれのグループをまとめてもらいました。初対面で盛り上がらないのではと少し不安でしたが、私の見た限りでは多くのグループが楽しそうに話している姿が見られました。反省としては、準備に取り掛かるのが遅れてしまい、もっと早く準備を終わらせていたらスムーズに進行出来たのではないかと思います。来年度、係になった方は限られた短い時間ですので有効に活用し是非頑張ってもらいたいです。

私は、この全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN) に副実行委員長として携わらせて頂き、自分の未熟さや良いリーダーとは何かというようなことを学ぶことが出来ました。また多くの課題を残し悔しい気持ちではありますが経験こそが私を大きく成長させてくれました。

そして何より、全国各地の高校生に出会えたこと、素敵な仲間とともに活動できたことは大きな刺激になりました。一緒に企画運営を行った実行委員の皆さんには沢山支えてもらい本当にありがとうございました。

最後となりましたが、ご支援、ご協力、ご参加くださり誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。また、お忙しい中サポートしてくださった顧問の先生方、ACCU の職員の方々をはじめとする多くの方々の支えがあり、今大会は無事に終わることができました。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

来年度は、国立オリンピック記念青少年総合センターにて 8 月 7 日、8 日に開催されます。多くの高校生のご参加をお待ちしております。

運営受付セクションリーダー挨拶

運営受付セクションリーダー
市川高等学校 2 年 湯浅空

『高校生の高校生による高校生のための模擬国連大会』、そんな素敵なコンセプトを掲げた模擬国連大会に、運営として携わることが出来たならどんなに素晴らしいだろう。」前回の第 1 回大会に大使として出場した私は、第 1 回大会を終えたそのときから、今大会の実行委員に立候補することを決めていました。

運営として模擬国連に参加するのが初めてだった私でしたが、委員長、フロント・アドミニセクションリーダーに頻繁なコミュニケーション、セクション間情報共有をしていただいたことで、不安が少しずつ解消されていきました。その二人にさせていただいたことを糧に、自分のセクションでも出来る限り、今セクションで進行していることの全体共有をするように心がけました。準備段階では、顔もわからない人を相手にコミュニケーションをとる、というお互いにとって難しい状況に対して、メッセージのやさやかさや、仕事分担の仕方を工夫しました。

前日の顔合わせは本当に緊張して、あまりメンバーと話すことが出来なかったのですが、大会 2 日間を通して協力して仕事をしていく中で、メンバーへの信頼感が増していくのを感じました。大会が終わってしまって、別れなければならないのが本当に寂しかったです。

また、運営の大変さを痛感したことや、新たな形で模擬国連に向き合ったことで、今後、大使として模擬国連に参加する際の行動においても良い刺激を得ることが出来たと思います。

何より、無事に大会を終えることが出来たこと、そして、実行委員の皆さん、先生方、ACCU の方々、参加者をはじめとするこの大会に携わったすべての人々に、感謝の気持ちでいっぱいです。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。この素晴らしい大会が、これからもずっと続いていくことを願っています。



フロント・アドミニセクションリーダー挨拶

フロント・アドミニセクションリーダー
ぐんま国際アカデミー高等部 3 年 茂木柚香

第 1 回大会に大使として参加し、実際に自分と同じ高校生が大会を運営している姿を見たときに、私は今大会の実行委員を志望することを心に決めていました。今無事に大会が終了し、達成感と寂しさを抱えながらも、半年に及ぶ準備期間と共に第 2 回全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN) を振り返りたいと思います。

他のどのセクションよりも当日の 2 日間の会議で活躍するフロント・アドミニセクションのリーダーを務めることに緊張と不安でいっぱいでした。サイバー空間上のみでしか連絡手段がなく、どのように仕事を分担すれば良いのか悩みました。顧問の先生とは何度も話し合いましたが、メールの文面のみでは話が進まないことも多く、私は実際にリーダーの顧問の先生の学校まで足を運びミーティングを行いました。ミーティング後には必ずセクションに話し合った内容を報告し、メンバーに仕事を振り分けよう意識しましたが、結局一人で作業を進めてしまうこともありました。しかしあるメンバーから「リーダーの仕事は仕事を振り分けること」だというアドバイスを受け、私は主に各議場の議長と連絡を取り、議場ごとに仕事を進めるようにしました。

また第 1 回大会の反省点を踏まえ、今大会では総務広報・運営受付・フロントアドミニのセクション間の情報共有を常に心掛けました。互いのセクションの状況を把握することで、自分のセクションではどのように準備を進めていけば良いのかを把握しました。また議場を初心者議場と一般議場で分け、初心者にとっては初めての模擬国連を日本語で、そして上級者にとっては日本語のハイレベルな大会を開催しました。

次年度大会に向けた改善点としては、NP・PPP の提出文書の整理についてです。今大会では初めて PPP の提出を必須とし、大会公式メールアドレスにて提出を受け付けました。しかし NP・PPP のまとめ文書を作成する際に、提出されていたのにも関わらず記載出来ていないことがあり、500 名を超える参加者から届くメールの整理は非常に困難でした。対策としては、大会公式ホームページを提出先にする、または提出を受理するメールアドレスを議場ごとに作成する等の案が挙げられます。

実行委員の一員として今大会の運営に携わり、互いに刺激を与え合うことが出来るような素敵な仲間に出会え、大変嬉しく思います。そして私自身、この経験を成長の糧にしていきたいと思います。最後になりますが、今大会を無事に開催することが出来たのは後援、協賛、協力をして下さった団体の皆様、顧問の先生方、そして ACCU の職員の方のおかげです。また共に大会を創り上げた仲間にも心から感謝しています。これからも、改善を重ねて全国高校教育模擬国連大会が開催されることを願います。

実行委員生徒一覧

<大会実行委員長 兼 総務広報セクションリーダー>

尾先 由崇（札幌日本大学高等学校）

<副実行委員長>

長倉 あんみ（宮崎学園高等学校）

高田陽一郎（浅野高等学校）

<セクションリーダー>

運営受付セクション：湯浅 空（市川高等学校）

フロント・アドミニセクション：茂木 柚伽（ぐんま国際アカデミー高等部）

<総務広報セクション>

長倉 あんみ（宮崎学園高等学校）

高田陽一郎（浅野高等学校）

大田 真衣（AICJ 高等学校）

佐々木 舞桜（宮城県仙台二華高等学校）

島田 怜（富士見高等学校）

須藤 雅香（富士見高等学校）

朴 玄珍（国際基督教大学高等学校）

増山 龍星（浅野高等学校）

森田 杏樹（青稜高等学校）

柳井 さくら子（ぐんま国際アカデミー高等部）

<フロント・アドミニセクション>

安藤 憲佑（海陽学園高等学校）

石川 満留（渋谷教育学園渋谷高等学校）

北村 理紗（東京都立国際高等学校）

小池 太一（駒場東邦高等学校）

嶋田 怜（豊島岡女子学園高等学校）

武田 藍砂（Koay）（公文国際学園高等部）

中尾 光希（AICJ 高等学校）

西田 有希（神戸大学附属中等教育学校）

入道 桜子（神戸大学附属中等教育学校）

長谷川 えみ里（渋谷教育学園渋谷高等学校）

福島 葵（渋谷教育学園渋谷高等学校）

米谷 源太（東京都立西高等学校）

<運営受付セクション>

天野 莉緒（豊島岡女子学園高等学校）

上原 あずみ（大阪府春日丘高等学校）

釘宮 なみか（公文国際学園高等部）

新谷 みずさ（公文国際学園高等部）

坪地 里穂（豊島岡女子学園高等学校）

西原 菜都乃（公文国際学園高等部）

野津 由旬（AICJ 高等学校）

平沼 昌太郎（開成高等学校）

水谷 海鈴（公文国際学園高等部）

三宅 翔大（AICJ 高等学校）

八島 桃子（大阪府春日丘高等学校）

矢田 祐風南（大阪府立春日丘高等学校）

和田 七星（大阪府立春日丘高等学校）

大会参加校一覧

浅野中学高等学校
麻布高等学校
郁文館グローバル高等学校
市川高等学校
叡明高等学校
江戸川学園取手高等学校
桜蔭高等学校
大谷高等学校
大妻高等学校
大妻中野高等学校
海城中学高等学校
海陽学園
学習院高等科
鹿児島情報高等学校
神奈川学園高等学校
神奈川県立横浜国際高等学校
金沢大学付属高等学校
関西学院千里国際高等部
岐阜県立岐山高等学校
岐阜県立岐阜高等学校
京都市立堀川高校
クラーク記念国際高等学校（横浜）
ぐんま国際アカデミー高等部
佼成学園女子高等学校
國學院大學久我山高等学校
駒場東邦高等学校
埼玉県立浦和西高等学校
済美高等学校
滋賀県立守山高等学校
渋谷教育学園幕張高等学校
十文字高等学校
頌栄女子学院高等学校
逗子開成中学・高等学校
清教学園高等学校
清泉女学院高等学校
青稜中学校高等学校
高田中高等学校

玉川学園高等部
千葉県立千葉東高等学校
中央大学杉並高等学校
中央大学附属高等学校
田園調布学園中等部高等部
東京インターハイスクール
東京女学館高等学校
東京都市大学等々力高等学校
東京都立小石川中等教育学校
東京農業大学第一高等学校
豊島岡女子学園
新潟県立直江津中等教育学校
西大和学園高等学校
福山市立福山高等学校
富士見丘高等学校
富士見高等学校
本郷高等学校
松本秀峰中等教育学校
三田国際学園中学高校
三輪田学園高等学校
岐阜県立関高等学校
盛岡中央高等学校
山手学院高等学校
公文国際学園高等部
山脇学園高等学校
横浜雙葉高等学校
群馬県立中央中等教育学校
ラ・サール高等学校
洛南高等学校
立教女学院高等学校
立命館高等学校
水城高等学校
女子聖学院高等学校
聖心女子学院高等科

合計 参加 71 校

各議場の講評・受賞校一覧・最優秀大使からのコメント

A 議場

【講評】議長：海陽学園高等学校 2 年 安藤憲佑

副議長：駒場東邦高等学校 2 年 小池太一

A 議場は参加国数が 70 を超える最大の議場であり、多くの国と議論をしてコンセンサスを目指すのは至難であったと思います。他にも多くの不安を抱えて迎えた会議でしたが、大使の皆さんの多くが熟練の経験者ということもあってか素晴らしい協議ができていたと思います。時間の少ない中でいかに多くの大使に政策を理解してもらい、協力者を集めることができるかが鍵だったと思いますが、皆が時間を最大限に有効活用して進める様子を見ていてもとても興味深いものとなりました。どうかこの経験を生かして今後の模擬国連の活動に役立てていただけたら幸いです。参加してくださり本当にありがとうございました。

【受賞校一覧】

最優秀賞	Qatar	渋谷教育学園幕張高等学校
優秀賞	Thailand	浅野高等学校
優秀賞	Singapore	駒場東邦高等学校
優秀賞	United Kingdom	玉川学園高等部
優秀賞	Dominican Republic	岐阜県立岐阜高等学校
優秀賞	Papua New Guinea	市川高等学校
実行委員特別賞	Poland	渋谷教育学園幕張高等学校

【最優秀賞】

Qatar 渋谷教育学園幕張高等学校 2 年 粕谷健翔

この度は第2回全国高校教育模擬国連大会において最優秀賞をいただき、ありがとうございました。この大会に携わったすべての実行委員のみなさん、先生方、会場で出会った仲間に感謝申し上げます。ここでは、今までの模擬国連人生を踏まえて、2つのことを述べようと思います。

模擬国連の魅力とは何でしょうか？「英語力が伸びること」「コミュニケーション能力が向上すること」など人によって様々であると思いますが、僕は「ともに不完全な人と人とが触れ合うこと」だと考えています。模擬国連ではペアである一か国の大使を模擬します。しかし、私たちは大使である以前に今を生きる一人の人間であります。ましてや、まだまだ未熟な高校生です。模擬国連でよく「これは国同士の対立じゃなくて、人間性の対立ではないか。」と思うような場面に出くわします。また、今回のような賞があるような大会では、国としての目標とは関係のない個人の目標も絡んできます。つまり、言い過ぎかもしれませんが、模擬国連は大使という仮面を被った高校生同士が行っているものです。その人の人間性が会議中、全面に出てしまうのは仕方のないことのように感じます。それを逆手に捉

えると、普段は関係を気にするせいと深い対立は避けるものの、大使という仮面を通すだけで、深い対立、裏に深い人間性が隠れた議論が可能になるということです。僕は、この人間味の溢れる模擬国連に魅せられたのです。

次に、模擬国連をやっていて感じたのは仲間の大切さです。僕が通う渋谷幕張高校は部活として模擬国連の活動をしています。僕は中 3 の終わりに興味本位で模擬国連をはじめました。最初の頃は右も左もわからず、リーダー国になったりして、前で話している先輩や同級生を見て、ただ「すごいな～」と思うばかりでした。しかし、何回も会議に出るうちに「そろそろ変わらねば」という気持ちが起こり、今まで雲の上の存在であった先輩や同級生に追いつきたいと思えるようになりました。それがきっかけで、毎回の会議に対して、真剣に向き合うようになりました。一人でやっていたらこのような感情は決して起こらなかったでしょう。僕をこのように成長させてくれたのは、紛れもなく、会議中でも日常生活でも、人間性を真正面からぶつけ合うことができる仲間の存在があったからです。今も、そんな仲間が大好きですし、感謝の気持ちでいっぱいです。

改めて、会議を開いてくださった実行委員の皆さんと先生方に感謝御礼申し上げます。ありがとうございました。

Qatar 渋谷教育学園幕張高等学校 2 年 高野広海

この度は第 2 回全国高校教育模擬国連大会において最優秀賞をいただきありがとうございました。この大会を運営してくださった実行委員の皆さんと先生方、そして共に素晴らしい会議を行うことができた大使の皆さんに深く感謝申し上げます。今回の会議ではペアと二人で「最優秀賞を獲ること」を最大の目標としてリサーチをし、会議行動を考えてきたので、その目標が実現できたことがとてもうれしいです。しかし、賞を重視するあまり自国の国益を重視できていなかったり、スポンサー国が足りず DR を提出できなかったりと、反省点が非常に多い会議になってしまったことも事実です。今後の会議では今回の反省を生かしてさらにいい大使になれるよう努力していきたいです。

僕が模擬国連で一番大切にしていることは大使になりきることです。僕が最初に模擬国連の会議に参加した時、会議後のレビューで副議長を務めていた同級生がその大切さを話していたのを今でも覚えています。平凡なことですが、実はこれが一番難しく、そして一番楽しいことだと僕は感じています。今回の会議ではカタールの大使を務めさせていただきましたが、ニュースでカタールが敵対する国のことをやっていけばテレビ越しにその国を侮辱するようなことを言ってみたり、カタールの首長の顔を一日一回は眺めてみたりと、少しやりすぎかもしれませんができるだけカタール人の気持ちになって会議に臨むことを心掛けました。また、今回の議題で言えば国家による情報統制など、日本人の良識としては絶対に反対なことに対しても、「情報統制？何が悪いんだ。表現の自由の尊重を尊重してうっかりテロでも起こされたらどうするんだ」というマインドセットで交渉をしていきました。そのように、普段日本人同士で話しては存在に気付かないような根本的な考え方の壁を感じ、乗り越えられることに模擬国連の魅力を感じます。

今回は日本語をメインとする会議だったこともあり、僕自身 DR をすらすら作ることができ、スピーチの内容も自然と入ってきたので、とてもやりやすい会議でした。他の大使の皆さんも、普段の英語を使う会議であれば DR の確認をする際に英語で説明されてもよくわからないと思うことが多いと思いますが、今回は日本語で確認できるので深い内容まで理解することができ、いつもより質問も多くいた

だったの、深い議論ができていたなと感じました。もちろん模擬国連の魅力の一つには英語があり、僕も模擬国連を通じて英語を上達させたいという思いはあります。しかし、やはり日本語を使うともっと内容の濃い会議が行えることは事実なので、AJEMUN という大会はとても大切だと感じます。改めて、会議を開いてくださった実行委員の皆さんと先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



B 議場

【講評】 会議監督：渋谷教育学園渋谷高等学校 2 年 石川満留

今回 B 議場では、参加者の大半が経験者であったため、滞りなく会議進行をすることができました。提出された決議案などのディレクションを行っている中で、どの文書も一貫性があり大きな認識のずれがなかったと確認ができたため、レベルの高い会議だったと思います。また、日本語で交渉し決議案を作成していたため、参加者全員が意見交換に積極的に取り組み、国際益や各国の国益を詳しく踏まえた文言を盛り込めたのではないかと思います。

今回の議題「サイバー セキュリティ」は、国によって立場や重んじてくる論点が非常に異なるため、各国大使の間で何から話し合われるべきかなど順番についての意見の違いが最初の方で見受けられましたが、どのグループも、そのグループが重んじる対立軸から順に効率的に議論をしていたので、話し合いは順調に進みました。またなぜ、軍縮を主に取り扱っている第一委員会が今回の議場になっているのかという、国際社会が求められている姿勢について話し合いをする上で重要な点に気づいた大使もいっしょに、感心するとともに高く評価できると思いました。表現の自由（人権尊重）か国家主権の尊重か、という非常にコンセンサスが取りにくい二つのスタンスが存在する中でも、妥協策を見出そうと、どのグループも最後までコンセンサスを目指していた会議行動が多く見受けられました。最終的にコンセンサスではなかったものの、二つの決議案が可決されました。時間が短かった中でも、最善を尽くしていた大使たちの様子を伺うことができたので、非常に嬉しく思っています。

【受賞校】

最優秀賞	Serbia	海城高等学校
優秀賞	Ecuador	渋谷教育学園幕張高等学校
優秀賞	Germany	渋谷教育学園幕張高等学校
優秀賞	Nigeria	西大和学園高等学校
実行委員特別賞	Argentina	浅野高等学校

【最優秀賞】

Serbia 海城高等学校 2 年 飯野諒平

模擬国連では国際問題を多角的に考える力が必要だ。そのためには様々な考えを持つ人が集まり、一人一人があたかも国家の代表であるように各問題に対処することが大事だと感じる。そんな中開かれた全国高校教育模擬国連大会は、色々な地域から、様々な背景や価値観を持った人が集まり、今まで見たことのない活発な議論が行われた。全国の高校生と共に話し合う絶好の機会であり、何より今までの模擬国連の中では一番楽しかった。

「全国」となると必然と今までの練習会議に比べて事前準備に意欲的に取り組むことができた。担当国はセルビア。英語で検索をかけ、セルビア語で出てきた情報を再び日本語に直して、できる限りの自国情報を拾って行った。特に今回の議題は「サイバー」。他の議題と比べて複雑であり、議題、そして各論点を理解するのに時間もかかってしまった。議論を組み立て、できる限り多くの人に理解し

てもらおうように様々な工夫を考え、当日に臨んだ。

大会当日は最初から全国から来た高校生の活発な議論に圧倒された。ユニークな考えを持つ大使、全会一致を目指した印象の残る交渉を行う大使、グループをうまくまとめ、各大使の理解と参加を再上限に促す大使など、様々な大使が目の前で活躍していた。一方自分のグループは終始不安定で、あまり上手にまとめることができなかった。内政に回っていた自分は、その全国レベルの議論を目の前に咄然とし、中々グループをうまく動かすことはできなかった。とにかく決議案をしっかりと作成して、自国グループのスポンサーの国益を守ることだけでは足りず、今後の議場行動、そして議論展開を見据えたうえでの交渉と決議案作成が必要となっていた。自分の今までの模擬国連の活動範囲が、そして自分の考えや行動の視野が、どれほど狭いか思い知らされた。

その一日目で感じた思いを胸に挑んだ二日目。とにかく堂々と自国グループの考えを推し進めることに専念した。そして会議前に3人で何度も何度も練った自分たちなりの議論の進め方で、全会一致を目指した議論に取り組んだ。決議案は2つに絞られ、そのうち一つのリーダー国となれた。これほど刺激を受けた二日間は、本当に自分にとって良い経験となった。そしてなによりものすごく楽しかった。

模擬国連は高校生が行うからこそ良い活動であり、やりがいがあると思う。秩序や平和を常に考慮し、偏見や自国益を含んだ現実的な議論では当分出てこないような政策が模擬国連では多発する。それは高校生の柔軟でユニークな発想でしか出てこない政策であり、今後さらなる混乱や無秩序が予想されるグローバル世界において重要になってくるものだ。次世代を担う私たちが国際問題を解決しなくてはならない時、柔軟に考えて、議論し合い、良い解決策を生み出すことができるだろうか。その力がこのような全国大会、そして高校生だけで国際問題への対処を考える模擬国連を通して、培われていると思う。

Serbia 海城高等学校2年 奥山周亮

今回、この教育模擬への参加はまだ模擬国連の経験が浅い私にとって初めての公式、それも全国規模のモノだった。全国規模であるということは今まで会議とは別格の規模であり、まったく知らない学校や地域すら異なる大使たちと意見を交わしたりする絶好の機会であり新たな経験を積むことが出来、またこれまで出てきた模擬国連での経験が少しでも身につけて居るかということを確認するアウトプットのこととすることができると考えて今回この大会に私は参加した。

今回の議題のサイバー空間はここ数年で一気に発展し重要度も増してきたものであり、成立からもまだ日が浅い分野という点からも非常に調べている上で興味深かった。しかし様々な用語や概念的な部分も一方で多く存在しており議題への深い理解を作るのは時間が掛かった。そして国ごとでも明瞭化されていない部分が存在し、日本語の資料があまり存在せず英語でのリサーチ多く行ったが調べきれない部分もあった。セルビア自身も規制側とも非規制側ともとれる対応をしており、自らの国のスタンスの確立にも時間が掛かった。

大会一日目、正直雰囲気は吞まれてしまった。私はグループ間交渉をメインに外交を行っていたのだが、なかなか自分達の政策や主張、立場を他のグループリーダーに理解してもらえなかったように感じた。他の大使は個々の強みを生かして、自分のグループに対して忠実な外交を行っていた中、内政グループとの情報交換を最初怠った私は自分のグループへの理解が十全ではなく結果として歯切れの

悪い答弁を何度かしてしまった。それでも締めるところは締めたつもりではあるが、やはりこれまでの経験や反省を生かした会議行動ではなく事前準備もちゃんと活用できていなかった。

大会二日目は初日の反省を生かすことを意識して行動した。まだまだ至らない部分ばかりであるのは確かだが、少しでも多くの国が国益を守れるようにすることを意識して行動することが出来たと思う。最終的にコンセンサスは達成できず、会議の目的は達成できたとは言えないが、時間が限られた中で最初はいくつもあったグループが最終的には一つ大きな対立を残しはしたものの二つになるまでまとまれたのは各大使の努力の賜物だろう。しかし、今会議の最大の対立点は解消することが出来なかった。結局、この問題は解決させられなかったといえるだろう。

国連では全く違う価値観を持った人たちが討論をして国益と国際益を両立させようとしている。それは当たり前だがとても難しい事であり対立点など無数に存在する。それを解消、緩和していくのは容易ではない。国連だけでなく社会には対立点など無数にある、だが私たちはそれをどうにか収めて物事を少しでも良い方向に進めて行かなければならない。今回の会議でそう思うことが出来、また対立への対処の大切さを改めて学ぶことが出来た。

改めて、今回素晴らしい会議を作ってくださった実行委員、スポンサーの皆様、一緒に話し合ってくれた大使の皆様、ありがとうございます！

Serbia 海城高等学校2年 三浦紘

「模擬国連はディベートではない。意見の違う人とも協力しなければいけないところが大変だが、醍醐味でもある。」

これは、去年の冬に模擬国連を始めた時、誘ってくれた友達に言われた言葉です。僕は今まで、この言葉を常に頭において模擬国連に臨んできました。まず、協力するためには自分の立場を分かりやすく伝えと同時に、相手の立場を正しく理解することが重要です。そして、できる限り多くの国に賛同してもらうことが最終目標です。しかし、今まで僕はどう協力するかを考えるのに必死で、それが本当の楽しさだと感じることはなかなか出来ませんでした。

そんな中、この大会を知りました。今まで、全国大会というスケールの大きな大会に出たこともなく、ましてや公式の大会に出たことすらありませんでした。全国大会はその名の通り、全国から来ている様々なバックグラウンドを持った他校の生徒とコミュニケーションをとることのできる数少ない機会なので、チャレンジしてみようと決めました。

この大会に出場するにおいて、たくさんの困難にぶつかりました。例えば、準備段階では、議題の性質上、調べてもなかなか直接的な情報を手に入れることが難しく、何とかか手に入れたデータの行間を読みながら自国の立場を推測しなければなりませんでした。

大会初日、最初のアンモデから積極的な大使の多さに驚きました。一瞬でグループが形成され、その中で活発に意見交換などが進んでいました。いつもだったら話しかける側の僕が、気が付けば話しかけられる側になっていました。焦って話そうとしても、どの大使も自国のスタンスをしっかり理解していて、なかなか説得することが出来ませんでした。参加している大使の実力に圧倒されると同時に、また、これが全国大会のレベルなのだと感じました。

最初のアンモデの反省を踏まえ、周りの大使以上に積極的に交渉しなくてはいけないと思い、それ以降、できるだけ多くのグループと綿密且つ粘り強い交渉を心掛けました。

ここで大切だと感じたのがペア間のチームワークです。落ち着いて丁寧な内政を行ってくれた飯野くん、他グループとの交渉を進めてくれた奥山くんを見て、僕がグループとの交渉に手こずっているときでも、自分を奮い立たせることが出来ました。準備の段階から協力してきた二人には感謝してもしきれません。

最終的に、コンセンサスには至りませんでしたが、両方の決議案を通すことが出来ました。この時、僕は素直に模擬国連を楽しんでいる自分に気が付きました。立場の違う全ての大使たちと共に、より良い決議を目指して交渉を行うことが出来たことで、僕は意見の違う人と協力することが模擬国連の醍醐味であるということを実感出来ました。この大会で得た経験をこれからの自分の人生に活かしていきたいと思います。

最後に、第2回全国高校教育模擬国連大会を運営してくださった実行委員の皆様、先生方、ACCUの職員の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



C 議場

【講評】会議監督：神戸大学附属中等教育学校 5 年 西田有希

2 日間の会議お疲れ様でした。どの大使も全日を通して積極的に会議に参加していた姿が見受けられ良かったと思います。しかし、課題点は沢山残る会議となったのではないのでしょうか。まず 1 つ目に会議冒頭で議長裁量により行ったモデですが、その次に移ったアンモデのことを考えるとやはり時間を使い切り論点に対する全体共有を行うべきだったのではないかと思います。しかし、2 回目の動議募集ではそのような状況を踏まえてか、モデを取っていたのでそれは凄く良かったと思います。2 つ目に同じ意見を持つグループ内で論点別に話し合うため、グループを 5 つに分けて行っていたと思います。しかし今回の会議では基本 2 人 1 組だった為、自国の利益を最大限に守るのであれば 2 グループに分けるのが最大だったのではないかと思います。最後にとっても基本的な内容ですが、提出書類のチェックが甘いです。2 日目の最初に Word ファイルにコメントをつけて渡したと思いますが、体裁が DR でも直っていませんでした。基本的なことはマニュアルを読み、確認して、完璧な状態でフロントに提出するように心がけて下さい。

【受賞校】

最優秀賞	Estonia	東京女学館高等学校
優秀賞	Colombia	駒場東邦高等学校
優秀賞	Nigeria	渋谷教育学園幕張高等学校
優秀賞	El Salvador	中央大学杉並高等学校
実行委員特別賞	Jordan	高田中高等学校

【最優秀賞】

Estonia 東京女学館高等学校 2 年 岡本悠伽

私は今回、全国高校教育模擬国連大会に出場し、エストニア大使として C 議場の最優秀賞を頂くことができました。C 議場は初心者議場であり、私自身初心者だったこともあり Position Paper を作る段階では苦労しました。ただ単に、自国についてインターネットで検索するだけではなく自国と深く関わる国や地域についても調べて理解しそれを踏まえた上で自国の政策を作り上げなくてはいけなかったからです。ですが、会議が始まる前には、自国の政策や会議の議題についてペアで話し合うだけではなく他国の社会情勢や政策について把握することができ、一日目・二日目共に私たちエストニアはグループのリーダーとして会議を進行し DR 作成を行うことができました。事前に他国の情報を得ておくことによりリーダー国として会議を進める事が出来たので、事前準備の重要性を実感しました。そして、会議中の他グループとのコンバインの際には、お互いのグループにとって有利になるような政策を考え提案し、スポンサー国の皆さんと妥協点を話し合いました。しかし、自国の利益だけを優先せずにすべてのスポンサー国・コンバイン相手に納得のいく DR を時間内に作成するのに難航しました。短時間で質の高い DR を作成するには、いかに端的に自分たちの政策をコンバイン相手に伝えられるか・スポンサー国への情報伝達を的確に行えるかが必要だと感じました。

今回の模擬国連大会で私たちは多くの方々に助けて頂きました。グループ形成をしてから上手く会議が進められなかったときは他国の大使さんがアドバイスをくださり、スポンサー国が多くなり会議の内容が伝わりづらくなってしまったときは私たちに変わり大きな声で会議進行をしてくださった大使さんもいらっしゃいました。そして、議長・副議長さんは、WP や DR 作成で不明点があればしっかりと教えてくださり、改善点があれば毎回丁寧にアドバイスをしてくださいました。私たちは、C 議場のすべての人たちのお陰で DR 作成からコンセンサスまでしっかりと行うことができ最優秀賞というとても大きな賞も頂けたと思っています。今回の模擬国連大会では、模擬国連についての知識だけでなく、この模擬国連大会でなくては得られない経験や人脈を得ることができました。大会を運営してくださった全ての人、そして私たちを二日間サポートしてくださった C 議場の皆さんに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

Estonia 東京女学館高等学校 2 年 木村理紗子

今回、エストニア大使として国際安全保障の文脈における情報及び電気通信分野の進歩について一つの国を代表する立場になったからこそ、学べたことが私にとって本当にかげがえのない経験になりました。私たちのペアは模擬国連初心者だった為、まず準備期間中からポジションペーパーを提出するのにも大変時間がかかってしまいました。また、テーマがサイバーについてだったということで情報収集がしづらかった部分もあったため、ポジションペーパーを提出後も、参加国の国分析などのリサーチや国としての方針の具体化、実現性を考慮して戦略を考えるのにペアでの協力が必要不可欠でした。

しかし、こうした準備時間で培われた団結力や協力体制、積極性などを会議で活かすことができました。最初は、約 10 数か国の小さなグループでしたが、リーダーとなった私達エストニアの意見だけでなく、グループ内からの意見や話し合いをしていくことで次第に内容を深めることができました。また、ペアでの役割分担をして、グループ内での話し合い担当、他グループとのコミュニケーションをとり、合併に向けての交渉を進める担当、そして私が担当していた、話し合いを WP や決議案に明文化する役割に分かれることで、会議全体の目標であった、一つのコンセンサスを目指すということを実現できるよう努めました。1 日目の中盤あたりから、他グループとの合併をしたことにより、グループのメンバー国数が次第に増やすことができましたが、1 日目の後半ではそのグループの拡大化に際してグループ内で積極的に話し合いに取り組んでいる大使とそうではない、いわゆる会議難民と呼ばれるような大使も見受けられました。

このような状況を踏まえ、2 日目の最初ではグループメンバー国 30 か国を 5 つのグループに分けることで、より各国家の意見を言いやすい環境づくりをし、それらを全体として共有し、納得の上でしっかりと決議案に反映するようにしました。グループ加盟国をはじめとする国々が真剣に議題に向き合い、自国の利益を考慮した上で解決に導くための方法や考えを共有し、交渉しながら最後に 2 つの決議案を可決することができたことを大変嬉しく思います。今回、私達エストニア大使は、最優秀賞を受賞することができましたが、本当に会議に参加した国々のご協力のおかげだと思いました。また今大会で、交渉力や表現力、コミュニケーション能力などの力の重要性を再認識することができ、非常に有意義かつ充実した 2 日間でした。これからも、現代世界を覆う様々な社会問題や国連で話し合われている内容に目を向けていきながら、模擬国連活動によって国際舞台で活躍できるようになりたいです。

模擬国連は私を大きく成長させてくれました。今までで一番成長した夏と言っていいほど、沢山の発見や学びを得ることが出来ました。模擬国連に参加して良かったと心から思います。しかも、最優秀賞を頂けるなんて、、、。本当に同じ議場の大使の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。私たちが担当したエストニアという国は、ICTは発展しているものの、世界的地位は低く、先進国でも発展途上国でもない交渉するには難しい国でした。なので、ポジションペーパーを作った時はインターネットに情報が載っていないため大変でした。また、どのような国と最初に手を組もうかと考える際にも苦労しました。第一声のアンモデでは、メモを出来る限り送ったおかげか、沢山の大使さんが私たちの所に来てくださりました。各大使の方々と大まかな情報統制や情報セキュリティに関しての考え方が同じだったので、一日目のワーキングペーパーを作るのが非常に楽でした。また、同じグループの大使の方々が優しく何度も助けられました。模擬国連はリーダーシップを養うだけでなく、コミュニケーション能力、交渉力を高めることが出来たと思います。それは、模擬国連に参加して初めて実感できることであり、大会に出ることを悩むのであれば、絶対に出ることを勧めます。二日目は主に他のグループの人とのコンバインを目指し、国際規範や政策の話し合いをし、良いレゾリューション作成するために頑張りました。イタリア大使さんとスペイン大使さんとの交渉は大変でしたが、全員が納得できるレゾリューションを作成できたと思います。そして、最後の投票では3分の2以上の可決をいただく事ができ、自分たちのレゾリューションが通った時は、本当にホッとしました。それは、他の大使さんが真剣に私たちと話し合いをしてくれたおかげであり、自国の政策を揺るがせない気持ちがあったからだと思っています。大会での二日間は学校の体育祭よりも大変で、心も体も疲れたのを覚えています。事前準備をした期間のことも思うと、模擬国連は長期の自分との戦いであり、どれだけ大会当日までに知識を得られるのかが大切だと感じました。また、チームメイトとのコミュニケーションを上手にとることもとても大切だと思いました。模擬国連に参加して、様々な地域の高校生と仲良くなれたと思います。同じ都道府県の子と仲良くなるのは簡単ですが、このような機会があったからこそ、違う地域で暮らす子と仲良くなれたと思います。心の底から模擬国連に参加して良かったです。



D 議場

【講評】議長：豊島岡女子学園高等学校 2 年 嶋田 怜

D 議場では、ほとんどの大使が、本大会が初めての模擬国連の会議参加でした。しかし初心者だからといって怖気づいてしまうことなく、会議のルールや仕組みなどを理解しようと積極的な姿勢でありました。またスピーチやアンモデレートコーカスの際、それぞれがリサーチし、考え出した政策をしっかりと周りに発信する姿勢もみられました。2 日間という短い間ではありましたが、時間が経つにつれ、会議内容を濃いものにつくり上げようという意識を感じました。また会議終了後にもフロントまで質問をして下さる大使の方々もいて模擬国連を深く知ろうという熱い意思がこちらまで伝わってきました。

一方で、会議が進むにつれ、模擬国連において最も重要な、自国の国民を背負いながら会議に参加する、自国の利益を守って交渉するという自覚が欠けてしまう場面もみられました。これは初心者に起こりがちなことではありますが、今後参加する練習会や大会ではこのようなことがないように心がけるよう、お願いします。

最後になりますが、本大会が大使のみなさんにとって、模擬国連に興味を持つキッカケとなり、これからの力となることをフロント一同願っております。本当にありがとうございました！

【受賞校】

最優秀賞	Tunisia	逗子開成中学・高等学校
優秀賞	United States	駒場東邦高等学校
優秀賞	Australia	駒場東邦高等学校
優秀賞	China	中央大学杉並高等学校
実行委員特別賞	Russian Federation	東京女学館高等学校

【最優秀賞】

Tunisia 逗子開成中学・高等学校 1 年 宇山大河

この度は、第 2 回全国高校教育模擬国連大会において最優秀賞を頂いたことに感謝しております。そしてこの全国教育模擬国連大会を運営してくださった方々にも感謝します。

チュニジアという国は、サイバー途上国でありサイバーに関してあまり活動しておらず、情報も多くはなかったなので意見が大きく反映される国ではないと思いました。そこで大きな国同士がお互い納得できるような政策などを提示し、国々の意見を反映しまとめる立場になろうと考えました。また今回の議題は国同士大きな対立が起こることは無いと思ったので、PPP 作成では BG の論点説明をよく読み対立してしまう国々が双方納得できるような政策を書くなど片寄った意見は書かないようにし、また他国の PPP をよく読み賛同してくれそうな所を探し、サイバー発展国など意見が大きく反映されそうな国は入念に調べたり、準備に多く時間を割いたと思います。

当日、自分達の政策に賛同してくれそうな国にはメモを出し準備は万全でした。自分は外交担当だったのですが、最初のアンモデでは国が集まらず、何とかグループは作れたが賛同してくれた国は少

ない状態でした。原因としては自分が外交に行くのが早すぎて、グループ内の意見交換が疎かになってしまったからです。次のアンモデではワーキングペーパーを配り集まってくれた国と意見交換や交渉をしグループの固まりを強くしました。また他のグループであまり意見が通ってないような国や意見の方向性が似ている国を勧誘し、自分たちのグループはすべての国が納得するワーキングペーパーを提出しようと心がけました。実際グループの意見が固まっていると、後にグループが割れてしまったり、脱退する国が減ると思いました。

二日目はグループ内で DR に向けての細かい交渉や他のグループとのコンバインなどが行われ、順調な流れだったと思います。自分たちのグループの国々が利益を得られているのかを念頭に置いて二日目は行動していました。また他のグループとのコンバインでも大きく意見が分かれることもなく DR 提出が一つに絞れて良かったと思います。

自分はこの模擬国連が二回目だったのですが、一回目より多くの国と交渉ができ、準備の時もメモや図を描くなど様々な工夫ができとても充実し、楽しむことができた模擬国連でした。またワーキングペーパーの草案を考え、様々な準備を一緒にしてくれて、当日は内交を務めコンバインの時に他グループと交渉を行ってくれたペアの三浦君にはとても感謝しています。

今回この教育模擬国連をするにあたってサポートしてくれた学校や先生方、大会の運営の方々、本当にありがとうございました。とても良い経験ができたと思います。これからも模擬国連には積極的に参加していきたいです。

Tunisia 返子開成中学・高等学校1年 三浦 遼太郎

まず初めに全国教育模擬国連大会で最優秀賞を頂けたことを光栄に思います。大使の皆さん、フロント、この模擬国連の運営に関わった実行委員、スタッフ、協賛企業、そしてペアの宇山君に感謝します。

今回の議題を考えるにあたり、様々な情報を集める必要がありました。PPP を埋めるだけでも普段見慣れない英語のサイトを読むことに始まり、わからないことはチュニジア大使館に問い合わせました。また、会議において交渉を進めやすくするため他国のリサーチも行い、資料作成も行いました。私たちは初心者ながら模擬国連の大変さを知ることになりましたが、同時に事前準備の大切さを学びました。

私たちはチュニジアがリーダー的な役割を果たすためには大使たちの印象に濃く残ることをするべきだと考えました。チュニジアは決して大国ではないからです。そこで私たちは WP の草案を作り、メモを作り、アンモデで目立ち他の国の大使を集めるために国旗を印刷してきました。各国の PPP を読みスポンサーになってくれそうな国を探したり、後々対立しそうな国はリサーチをして、相手国が自分たちの意見を受け入れるメリットを考えました。おそらく、今回の成功の要因はこれらの事前準備によるものが大きいと思われます。

一方で、当日何度か大きな失敗をしてしまいました。まず、一日目にスポンサーを増やすことを重視しすぎてしまいグループ内での意見共有をおろそかにしてしまい、大使たちが他のグループの話を聞きに行き、グループが崩壊しかけました。WP のスポンサーの掛け持ちが許されていたためなんとか WP を提出することはできましたが、そのときにはスポンサー国の半分ほどしかグループにはいませんでした。しかし、一日目の終盤にフランス大使がグループに来ました。フランス大使はグループ内で情報共有をしてくれたり、他のグループから私たちのグループの意見に賛同してくれる大使を集めてきて

くれました。このフランス大使の活躍で何とか立て直すことができました。そして、一日目の反省を踏まえて二日目の最初のアンモデでグループ内でコンバインに向けてどのくらいまでなら妥協できるかを話し合い、グループをまとめることができました。しかし、二日目でも問題は起こってしまいました。コンバインの際、主要3グループ6か国でDRをまとめていたのですが、DRの詳しい内容を把握しているのはその6か国とほんの一部の国だけでした。その結果、内容を説明してスポンサーを得るのに時間がかかり提出期限の5分前の提出になり、しかも、手違いでスポンサーではない国をスポンサーに入れてしまうというあってはならないことをしてしまいました。このときもフランス大使が大使たちにDRの説明をしてくれていましたが、情報伝達の役割をより多くの大使にお願いしていれば、このような事態は回避できた。これら、二つの失敗の共通する原因は協力をしなかったことです。特に情報共有をするように大使たちに協力を求めれば、もっと効率よく会議を進められました。この反省をもとに協力の必要性を胸に刻み、これからの模擬国連にいかしていこうと思います。

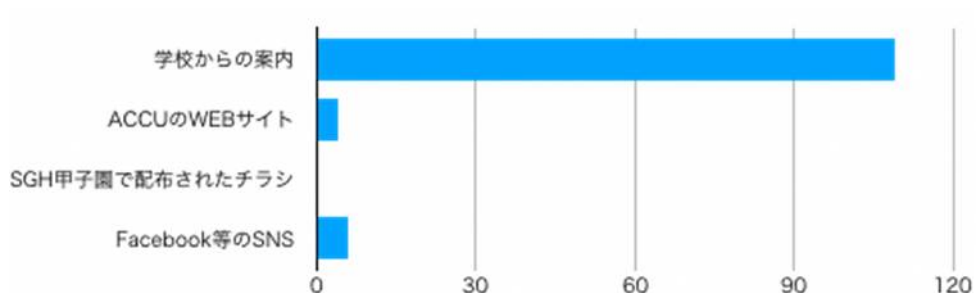
今回の模擬国連を通して、私たちは上記の内容以外にも様々なことを学びました。それら全てがこれからの模擬国連にいかせるものだと確信しています。最後にこのような貴重な経験を提供してくれた全ての関係者に改めて感謝します。ありがとうございました。



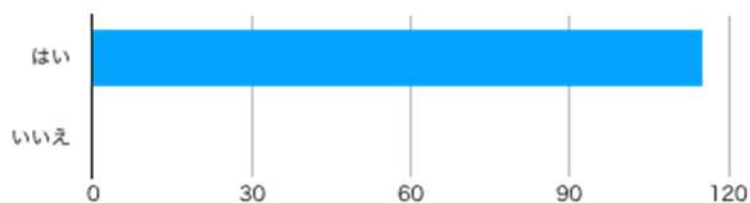
参加者アンケート

アンケートにご回答いただき誠にありがとうございました。今後の会運営に反映させていきたく、貴重なご意見頂戴いたしましたこと重ねて御礼申し上げます。

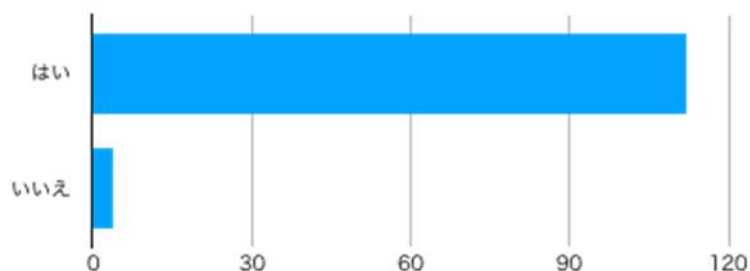
○本大会をどのように知りましたか？



○本大会に参加してよかったですか？



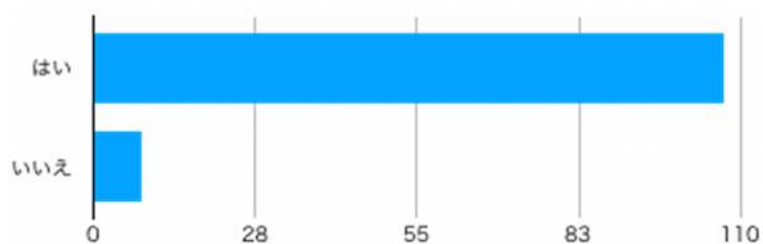
○大会資料＜会議細則・BG・パンフレット＞は見やすかったですか？



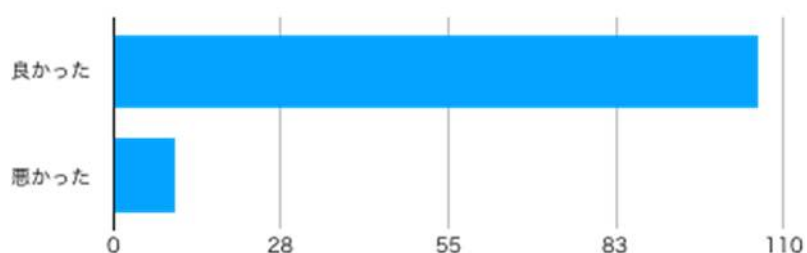
○上記質問で「いいえ」と回答された方のみ、何の資料がどのように見づらかったですか。

- ・全体的に難しかった。
- ・PPP の指示が曖昧だった。特に「サイバー肯定国」「サイバー否定国」について、サイバーの何を肯定、否定するのか、理解できなかった。
- ・メモについての説明がわかりにくかった。特にメモ回しの使い方についてがわかりにくかった。
- ・会議細則・パンフレットは大変すばらしかった。いままで私が見てきた模擬国連の中でも大変優れたパンフレットを作成していて、今後自分が運営する側を行う際に大変参考になった。しかしながら、BG についてはフロントの準備が足りないと言わざるを得ないと感じた。

○今後も模擬国連活動を続けて行きたいとお考えですか？



○本大会の運営は、高校生実行委員が務めさせていただきました。実行委員の仕事ぶりはいかがでしたか？



○上記質問で「悪かった」と回答された方のみ、どのような点が悪かったですか。

- ・折角の大きな大会なのに、マイクを持つ方が緊張して聞き辛い話し方や適当でない言葉選びである箇所が見られた。悪い意味で高校生らしさが出ていたと感じる。
- ・ホームページ上の説明や、議場の進行
- ・議場ごとに議長の議事行動やルールが統一されてなかった。
- ・人により、仕事の質と理解の差が大きすぎる。
- ・初心者議場なのに説明が少なく、混乱を招いてしまっていることが多くあった。
- ・理解が足りない参加者に対し責めるような場面があり、少し威圧感があったように感じた。
- ・事前準備をもう少ししてほしかった（プロシージャー）
- ・WP のプリントしたものの、文字がバラバラになってしまっていて、会議中に WP を確認することができなかった。

○自由回答

- ・General Assembly は全議場分、見学者が手に持つことができるとあり難いです
- ・PPP の内容に不明瞭な点があった
- ・プロシージャーをもう少し詳しく
- ・フロントのミスが多かったように思う
- ・進行に若干誤りがあったりしたのでそこを改善してほしい
- ・英語よりも日本語を使用したほうが内容の質が良くなる
- ・DR 提出時や投票時等はしっかりするべき
- ・大会直前の変更などが多いように感じた

後援・協賛・協力（※順不同）

本大会の実施にあたり、多くの方々から温かいご支援を賜りました。ここに厚くお礼申し上げますとともに、謹んでご芳名を掲載させていただきます。

【後援】

外務省
一般財団法人東京私立中学高等学校協会
国際連合広報センター
全国都道府県教育委員会連合会
東京都教育委員会
特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会
日本私立中学高等学校連合会

【協賛】

学校法人河合塾
河合塾 みらいふ
株式会社公文教育研究会
株式会社第一学習社
株式会社近畿日本ツーリスト 首都圏国際交流センター
実教出版株式会社
株式会社山川出版社
立命館アジア太平洋大学（APU）
東京書籍株式会社
株式会社 JTB 教育第一事業部
国際大学 IPU New Zealand

【助成】

公益財団法人公文国際奨学財団

【協力】

理想科学工業株式会社
グローバル・クラスルーム日本委員会

御礼

大会を開催するにあたり、理想科学工業株式会社様より 4 台の印刷機をお借りすることができました。500 名を超える高校生たちに、一度に Working Paper や Draft Resolution を配布するには、印刷のスピードと正確性が重要となってまいります。模擬国連大会を推進するのに最適な印刷機をお持ちの、理想科学工業株式会社様にご依頼させて頂き、快くお引き受け頂きましたこと、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。



(理想科学工業株式会社 営業統括部 長濱誠志様、広報部 榊原万貴様にはお世話になりました)

理想科学からのコメント



高速プリンター オルフィス

今回の全国高校教育模擬国連大会では、この「オルフィス」「リソグラフ」による各種書類のプリントを通じ、大会運営をサポートいたしました。理想科学はこれからも事業特性を活かした支援活動を実施してまいります。大会に参加された高校生のみなさんの、これからのご活躍をお祈り申し上げます。

理想科学は、終戦翌年の 1946 年に謄写印刷業として創業しました。現在では、「世界に類のないものを創る」を開発ポリシーとし、ペーパーコミュニケーションの分野で独自の製品・サービスを提供しています。当社の主力商品である高速カラープリンター「オルフィス」やデジタル印刷機「リソグラフ」は、世界の教育現場でも幅広くお使いいただいています。



デジタル印刷機 リソグラフ

大会運営代表より

「御礼」

大会運営代表
公文国際学園中高等部 米山 宏

昨年、第1回大会より100名近く多い、500名超の全国からの高校生を集めて第2回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)が無事終了しました。全く経験則もなかった昨年の大会に比べれば、随分と順調に大会は運営されていたと思います。とくに昨年副実行委員長を経験し、今年は実行委員長を担ってくれた札幌日本大学高等学校の尾先君をはじめ、実行委員生徒の皆さんの功績は実に大きいと感じています。ただ大会は運営側のものではありません。参加者の大使の皆さんあっての大会です。一人一人の大使が与えられた課題に真摯に向き合い、協働して地球的課題に解決への道筋をつけてゆく。この作業がいかに尊く、創造的であるか。全国の大使の皆さんや、顧問の先生方はそれに気づいていることと思います。そのような皆さんが集い、存分に力を発揮した時に、この大会の成否が決まるのではないかと思います。

今年は昨年には無かった試みとして、初心者議場を設けてみました。大会運営を担う役員の方の間では「初心者が経験者から学ぶことも多いのではないか」と初心者だけの議場に慎重論もありましたが、ふたを開けてみれば全4議場のうち初心者議場が2つになるほど盛況でした。いかに新たに模擬国連を始めようとしている高校生が多数いるかということを実感することができました。また、今年の議題がやや難解だと思われたため、議論が低調になってしまわないかと危惧されましたが、杞憂に終わったようです。むしろ初心者・経験者問わず、昨年同様に活発な議論が繰り返されたことを大変うれしく思います。とくにどこの議場でもコンセンサスを目指す動きがあったことは特筆にあたるでしょう。実際の国連の場でもそうですが、国際協調を図ることは常に我々の理想として掲げていなければならないと感じるからです。

昨年、私はこの欄で「大会は成功でしょうか？」と問いかけました。答えはこの大会に関わったすべての皆さん、一人一人の中にあると思います。私は大会運営代表者として、安易に満足してしまうことに危うさを感じているのはもちろんですが、それよりもこの素晴らしい大会を「もっといいもの」にしていかなければならない責任を感じています。大会としてまだまだ未熟な部分が多数あります。昨年同様に回を重ねることの重要性を痛感しています。「大会の成功」を語るには時期尚早なのかもしれません。

今年は、昨年以上に多くの関係者の方々ご尽力で大会が成り立っていることを実感する場面が多くありました。今年関わっていただいた誰一人が欠けても大会は成り立たなかったことでしょう。最後にこの場をお借りして、大会にご協力いただいたすべての皆さま、ご協賛いただいた企業・団体の皆様方、そして何よりも全模研と共同して大会を主催していただいた ACCU の皆さんに厚く御礼を申し上げます。未来を見据える高校生を育てる側として、引き続き今後も私たち大人がこの大会を支えるという意識を持っていれば大会運営代表として、こんなに嬉しいことはありません。ありがとうございました。

役員一覧

- 【大会運営代表】 米山 宏 （公文国際学園中部・高等部）
- 【 同 副代表】 竹林 和彦（早稲田実業学校）
- 【 同 副代表】 岡野 晃一（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター）
- 【総務広報セクション】 宮坂 武志（浅野高等学校）
- 後藤 芳文（玉川学園中部・高等部）
- 池田亜佑美（金光大阪高等学校）
- 米山 宏 （公文国際学園中部・高等部）
- 河口枝里子（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター）
- 【運営受付セクション】 関 孝平 （大妻中学・高等学校）
- 柿岡 俊一 （埼玉県立浦和西高等学校）
- 三浦 佳奈 （富士見中学高等学校）
- 【フロント・アドミニセクション】
- 齊藤 智晃 （渋谷教育学園幕張中学校・高等学校）
- 飯島 裕希 （頌栄女子学院中学校・高等学校）
- 室崎 摂 （渋谷教育学園渋谷中学高等学校）
- 野村 佳史 （清泉女学院中学高等学校）
- 竹林 和彦 （早稲田実業学校）
- 【大会顧問】 星野 俊也 （国連日本政府代表部大使次席常駐代表）
- 進藤 由美 （公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター）



公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)は、ユネスコをはじめとする国際機関、国内外の専門家、教育機関と連携しながら、アジア太平洋地域各国の文化と教育の振興に寄与するために人材の育成と交流事業を実施します。そして多様な活動を通じて国際理解と親善を推進し、ユネスコ活動の広報に尽力します。

2018年度も「持続可能な開発のための教育」(ESD)を推進し、「持続可能な開発目標」(SDGs)実現を目指し、ユネスコが主導する「ESD グローバル・アクション・プログラム」(ESD-GAP)のキーパートナーとして、これまでの事業の充実と発展を図るとともに、幅広く新しい可能性を探り、持続可能な平和な社会の構築に貢献するための事業展開をしていきます。



第3回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)開催のご案内

次年度は下記の日時・場所にて表記大会を開催する予定にしております。全国からのご参加お待ちしております。

- ・開催日時 2019年8月7日(水)・8日(木)
- ・開催場所 国立オリンピック記念青少年総合センター





2018 年 10 月 発行